

研究テーマ

「視覚支援とソーシャルスキル学習を利用し
感情をコントロールする力を育てる」

1

本実践に関連する児童の実態

対象児童 小学校第2学年 A児

○課題

- ・嫌なことがあった時、大きな声で怒ったり泣いたりすることがある。
- ・「自分はダメだ。」と思い込んだ時に落ち着いて受け答えができないことがある。
- ・間違えを受け止められないことがある。
- ・物事を字義通りに受け止めやすい。

○強み

- ・視覚が優位である。
- ・思ったことをはっきり言える。

2

指導目標・指導仮説

教科等及び単元・題材名
自立活動（こんなときどうする？）
学級活動（よりよい人間関係をつくろう）

目標

自分が嫌な気持ちの時に感情をコントロールして落ち着いて受け答えができる。

指導仮説

視覚の優位さを利用してソーシャルスキル学習を行えば、自分が嫌な気持ちの時に感情をコントロールして落ち着いて受け答えができるようになるだろう。

児童の実態

3

指導・評価の計画

◆表1 指導・評価の計画

	主な学習活動	目標	評価方法
1時	「気持ちをコントロールすること」について考えよう。	自分が嫌な気持ちの時に感情をコントロールして落ち着いて受け答えをすることが大切だということを理解することができる。	発言
2時	こんな時どうするか考えよう。	ソーシャルスキルカードを用いて学ぶことで、自分が嫌な気持ちの時でも落ち着いて受け答えをする態度を育てる。	発言 観察
3時	ゲーム大会をしよう。	授業で身に付けたスキルを汎用して、自分が嫌な気持ちの時に感情をコントロールして落ち着いて受け答えをすることができる。	発言 観察

◆表2 実践前後の変容の評価

評価内容	評価方法
実践前後での先生や友達とのやりとり	発言、観察

4

視覚支援とソーシャルスキル学習を利用した指導の実際①

これは勉強中です。どんなことが起きているかな？

それぞれ（言った方、言われた方）の気持ちはどうかな。

嫌な気持ちになっているのは二人だけかな。周りの人はどう思っている？

それぞれどうやって言えばよかったのかな。

ソーシャルスキルカードを用いて

5

視覚支援とソーシャルスキル学習を利用した指導の実際②

授業中に隣りの子に話しかけた場面

今話しかけないで！ダメだよ！

今日の給食・・・

あっ、ごめんね。わかったよ。

ロールプレイング

6

視覚支援とソーシャルスキル学習を利用した指導の実際③

クイズの答えで「違います」と言われた場面

今からクイズをします。これは何でしょう。

答えは～です。

違います。

間違えた！
(前、勉強したあれを使おう！)
(愚を吸って) ほ～ふう。
まあ、いつか。

学びを生活に生かす (汎用)

視覚支援とソーシャルスキル学習を利用した指導の実際④

教室に掲示する

机にキーワードを貼っておく

学習過程の評価

時	学習活動	児童生徒の状況	達成状況
1	「気持ちをコントロールすること」について考えよう。	怒った人も怒って言われた人も、周りで聞いていた人も嫌な気持ちになるから、嫌な気持ちをコントロールして落ち着いて受け答えすることが大切だということを理解することができた。	○
2	こんな時どうするか考えよう。	カードの役になりきり、板書にある「よい受け答えのカード」を見て答えることができた。 授業後のまとめでは、A児は「『まあいつか。』と思うと、青のハートがピンクのハートに変わる。」と発言し、よさに気付いていた。	○
3	ゲーム大会をしよう。	カードの場面はうまく受け答えができるが、カードにない場面になると落ち着いて受け答えができない時がある。声を掛けると気付いて直そうとする時もあった。	○

実践前後での児童生徒の変容

実践前	実践後
自分が嫌な気持ちの時に大声で泣いたり怒ったりしていた。 ・感情をコントロールできた回数の自己評価が1/7回だった。 ・感情をコントロールできた回数の他者評価が0/7だった。	掲示してあるカードや机の紙をじっと見ていたり、そのカードを見て、受け答えを直したりする場面がいくつか見られた。 学習した内容なら、自分の感情をコントロールして受け答えできる回数が増えた。 ・感情をコントロールできた回数の自己評価が4/7回だった。 ・感情をコントロールできた回数の他者評価が3/7だった。

指導仮説の検証

- 児童は目標を達成したか。
 - ・概ね達成した。
- 判断の理由・根拠
 - ・休憩時間や他の授業においても、嫌な気持ちになった時に自分の感情をコントロールして落ち着いて受け答えをする回数が増えたため。
 - ・自己評価も他者評価も実践前後で数値がよくなっているため。
- 指導の工夫は有効であったか
 - ・有効であった。
- 判断の理由・根拠
 - ・授業後、掲示してあるソーシャルスキルカードを自分から見ていたり、別の授業で同じ場面が出てきた時、カードを見て受け答えを直したりしていたため。

指導の改善案

成果 (よかった点)	課題 (改善が必要な点)
<ul style="list-style-type: none"> ・視覚支援を行ったことで、受け答えのモデルを理解させることができた。 ・ソーシャルスキル学習において相手も周りの人も嫌な気持ちになることに気付かせたことで、どうしてそうしないといけないのか分かり、自分の受け答えを振り返らせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・汎化が難しい児童に、多様な類似場面の提示をするための時間確保が必要である。

- 成果・課題を踏まえた改善案
- ・生活の中で似たような場面が出てきた時に、既習のソーシャルスキル学習と関連づけ意識させる。
 - ・視覚支援やソーシャルスキル学習を用いた学習を引き続き行う。